

# NPO法人あにまるサポート隠岐 定款

## 第1章 総則

### (名称)

第1条 この法人は、NPO法人あにまるサポート隠岐という。

### (事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を島根県隠岐郡隠岐の島町栄町873-1に置く。

## 第2章 目的および事業

### (目的)

第3条 この法人は、動物愛護の精神に基づき、隠岐の島町が必要性を認めつつも、様々な理由により出来ない活動、事業を、隠岐の島町、隠岐の島町民、各関係機関のご協力をいただき行います。

- (1)「ペット、動物に優しい隠岐の島」のコンセプトのもと、定住人口、関係人口、交流人口の増加を目指します。「ペットと暮らす終の島」、「ペットと訪れたい島」となるような、活動、事業を行います。
- (2)ペットが与えてくれる、やさしさ、温もり、安らぎ、信頼を、人がより感じられる島を目指します。「ペットと出会い、ふれあいの出来る島」、「ペットから学び、幸せを与えてもらえる島」となるような、活動、事業を行います。
- (3)「不幸な動物ゼロの島」を目指します。隠岐の島町には野良猫、捨て猫、避妊手術の済んでいない地域猫、飼育崩壊などの問題が多くあります。飼い主さんはもとより、地域の人の動物との接し方の啓蒙活動や、全てのペットが一生を幸せに送れるような活動、事業を各関係機関と協力して行います。
- (4)上記の活動、事業は、動物が苦手な人がおられることを念頭におき、人とペット、動物との共存と、線引き、棲み分けを第一に考え行います。

### (特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1)保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2)社会教育の推進を図る活動
- (3)観光の振興を図る活動
- (4)農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- (5)子どもの健全育成を図る活動

### (事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の活動、事業を行う。

- 1 (1)動物用火葬炉の設置と運営に係る事業
- (2)ペット霊園、共同墓地の設置と運営に係る事業
- (3)ペット、動物に関する相談を受ける活動

- (4)犬猫の保護活動
- (5)譲渡会や、里親、一時里親を探す活動
- (6)地域猫活動と避妊去勢手術の普及活動
- (7)飼い主の勉強会と飼い主間の交流を深める活動
- (8)ネットワークを作り維持する活動
- (9)小中養護学校や福祉施設への訪問活動
- (10)動物、ペットとの出会い、ふれあいの会を開催する活動
- (11)ドッグランの要望、設置、運営に係る活動
- (12)災害時における動物愛護体制の整備をする活動
- (13)その他目的を達成するために必要な活動

- 2 この法人は、次のその他の事業を行う。
  - (1)動物病院への通院や散歩のサポート業
  - (2)セラピードッグとトレーナー・ハンドラーの育成を行う事業
  - (3)ペット用品のリース業、買い物代行業
  - (4)物品販売業
  - (5)イベント等での飲食屋台での販売業
- 3 前項に掲げる事業は、第1項に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、その収益は第1項に掲げる事業に充てるものとする。

### 第3章 会員

#### (種別)

第6条 この法人の会員は次の4種類とし、正会員をもって特定非営利活動促進法(以下「法」という。)上の社員とする。

- (1)正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体。社員総会に出席し、意見を述べ、議決権をもつ。
- (2)賛助会員 この法人の目的に賛同し賛助するために入会した個人及び団体。社員総会に出席し、意見を述べることはできるが、議決権をもたない。
- (3)ボランティア会員 この法人の目的に賛同し、ボランティアとして各種活動に協力して頂ける個人。社員総会に出席し、意見を述べることはできるが、議決権をもたない
- (4)メール、LINE、手紙会員 この法人、活動、イベント情報に興味があり、この法人が提供するメール、LINE、手紙(郵送)での情報を希望する個人及び会員。社員総会に出席し、意見を述べることはできるが、議決権をもたない。

#### (入会)

- 第7条
- 1 会員の入会について、特に条件は定めない。
  - 2 会員として入会しようとする者は、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとする。
  - 3 理事長は、前項の申し込みがあったとき、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない
  - 4 理事長は第2項の者の入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって

本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当する場合は、その資格を喪失する。

- (1)退会届の提出をしたとき。
- (2)本人が死亡、もしくは失踪宣告を受け、または会員である団体が消失したとき。
- (3)継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4)除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条

- 1 会員が次の各号の一に該当する場合は、総会の議決により、これを除名することができる。
  - (1)この定款に違反したとき。
  - (2)この法人の名譽を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- 2 前項の規定により会員を除名しようとする場合は、議決の前に当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

#### 第4章 役員

(種別及び定数)

第12条 1 この法人に、次の役員をおく。

- (1)理事3人以上10人以下
- (2)監事1人以上3人以下

2 理事のうち1人を理事長、1人以上2人以下を副理事長とする。

(選任等)

第13条 1 理事及び監事は、総会において選任する。

2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。

3 それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族で役員に選任できるのは1人までとする。

4 それぞれの役員についてその役員並びにその配偶者および三親等以内の親族の合計人数が役員の総数の3分の1を超えてはならない。

5 法第20条各号のいずれかに該当する者は、この法人の役員になることができない。

6 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

(職務)

- 第14条
- 1 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。
  - 2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。
  - 3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会又は理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
  - 4 監事は、次に掲げる職務を行う。
    - (1)理事の業務執行の状況を監査すること。
    - (2)この法人の財産の状況を監査すること。
    - (3)前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
    - (4)前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。
    - (5)理事の業務執行の状況又はこの法人の会計処理の方法が適正であるか否かなどの財産の状況について、理事に意見を述べることができる。

(任期等)

- 第15条
- 1 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
  - 2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていないときは、任期の末日後最初の社員総会が終結するまでその任期を伸長する。
  - 3 補欠のため、又は増員により就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
  - 4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

- 第16条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超えるものが欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

- 第17条
- 1 役員が次の各号の一つに該当する場合には、総会の議決により、これを解任することができる。
    - (1)心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。
    - (2)職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。
  - 2 前項の規定により役員を解任しようとする場合は、議決の前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

(報酬等)

- 第18条
- 1 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。
  - 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
  - 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(種別)

- 第19条 1 この法人の会議は、総会及び理事会の2種とする。  
2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

(総会の構成)

- 第20条 総会は、正会員をもって構成する。

(総会の権能)

- 第21条 総会は、以下の事項について議決する。
- (1)定款の変更
  - (2)解散及び合併
  - (3)会員の除名
  - (4)事業計画及び収支予算並びにその変更
  - (5)事業報告及び収支決算
  - (6)役員を選任及び解任
  - (7)役員の職務及び報酬
  - (8)入会金及び会費の額
  - (9)資産の管理の方法
  - (10)借入金(その事業年度内の収支をもって償還する短期借入金を除く。第48条において同じ。)その他新たな義務の負担及び権利の放棄
  - (11)解散における残余財産帰属
  - (12)事務局の組織及び運営
  - (13)その他運営に関する重要事項

(総会の開催)

- 第22条 1 通常総会は、毎年1回開催する。  
2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。  
(1)理事会が必要と認め、招集の請求をしたとき。  
(2)正会員総数の5分の1以上から会議の目的を記載した書面により招集の請求があったとき。  
(3)監事が第14条第4項第4号の規定に基づいて招集するとき。

(総会の招集)

- 第23条 1 総会は前条第2項第3号の場合を除いて、理事長が招集する。  
2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。  
3 総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法(電子メール、ショートメール、LINEとし、以降電磁的方法とする)により、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(総会の議長)

- 第24条 総会の議長は、理事長若しくは理事長が指名した正社員がこれにあたる。

(総会の定足数)

第25条 総会は、正社員総数の2分の1以上の出席がなければ開催することはできない。

(総会の議決)

- 第26条 1 総会における議決事項は、第23条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。
- 2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(総会での表決権等)

- 第27条 1 各正会員の表決権は平等なものとする。
- 2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面若しくは電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決した正会員は、前2条及び次条第1項の規定の適用については出席したものとみなす。
- 4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(総会の議事録)

- 第28条 1 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
- (1)日時及び場所
  - (2)正会員総数及び出席者数(書面若しくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。)
  - (3)審議事項
  - (4)議事の経過の概要及び議決の結果
  - (5)議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及び総会において選任された議事録署名人2人が、記名押印又は署名しなければならない。

(理事会の構成)

- 第29条 1 理事会は、理事をもって構成する。
- 2 監事は、理事会に出席し、意見を述べる事ができる。

(理事会の権能)

- 第30条 理事会は、この定款に別に定める事項のほか、次の事項を議決する。
- (1)総会に付議すべき事項
  - (2)総会の議決した事項の執行に関する事項
  - (3)その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項
  - (4)役員職務に関する事項
  - (5)事務局の組織及び運営

(理事会の開催)

第31条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の2分の1以上から理事会の目的である事項を記載した書面により招集の請求があったとき。

(理事会の招集)

第32条 1 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。

3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(理事会の議長)

第33条 理事会の議長は、理事長若しくは理事長が指名した正会員がこれにあたる。

(理事会の議決)

第34条 1 理事会における議決事項は、第32条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(理事会の表決権等)

第35条 1 各理事の表決権は、平等なものとする。

2 やむを得ない理由により理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について、書面又は電磁的方法をもって表決することができる。

3 前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(理事会の議事録)

第36条 1 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名(書面又は電磁的方法による表決者にあつては、その旨を付記すること。)

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人が記名押印又は署名しなければならない。

## 第6章 資産

### (構成)

第37条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1)設立当初の財産目録に記載された資産
- (2)入会金及び会費
- (3)寄付金品
- (4)財産から生じる収入
- (5)事業に伴う収入
- (6)その他の収入

### (区分)

第38条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産、その他の事業に関する資産の2種とする。

### (管理)

第39条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

## 第7章 会計

### (会計の原則)

第40条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行わなければならない。

### (会計区分)

第41条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業会計、その他の事業会計の2種とする。

### (事業年度)

第42条 この法人の事業年度は、毎年9月1日に始まり、翌年8月31日に終わる。

### (暫定予算)

- 第44条
- 1 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日までに全事業年度の予算に準じ収入支出をすることができる。
  - 2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収支支出とみなす。

### (予備費)

- 第45条
- 1 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。
  - 2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

### (予算の追加及び更生)

第46条 予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、暫定予算の追加又は更生をすることができる。

(事業報告及び決算)

第47条 1 この法人の事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書等決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上余剰金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(臨機の措置)

第48条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借り入れその他新たな義務の負担し、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

## 第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第49条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経て、かつ、法第25条第3項に規定する軽微な事項を除いて所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第50条 1 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

(1)総会の決議

(2)目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能

(3)正会員の欠亡

(4)合併

(5)破産手続き開始の決定

(6)所轄庁による設立の認証の取り消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散する時は、正会員総数の4分の3以上の議決を経なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第51条 この法人が解散(合併又は破産手続き開始の決定による解散を除く。)したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、総会において議決した者に譲渡するものとする。

(合併)

第52条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員数の4分の3以上の議決を経て、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

## 第9章 公告の方法

(公告の方法)

第53条 この法人の公告は、この法人のホームページに掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表および法第35条第2項に規定する合併の認証後の異議の申し出の公告についてはこの法人のホームページに掲載する。

## 第10章 事務局

(事務局の設置)

第54条 1 この法人に、この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。  
2 事務局には、事務局長及び必要な職員を置く。

(職員の任免)

第55条 事務局長及び職員の任免は、理事長が行う。

(組織及び運営)

第56条 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

## 第11章 雑則

(細則)

第57条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

(附則)

1 この定款は、この法人の設立の日から施行する。  
2 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

理事長	村上操
副理事長	村上規子
副理事長	尾林都
理事	田中美穂
理事	高梨久美
理事	長田安恵
理事	黒崎祐治
理事	石谷恵美
監事	高梨靖子

3 この法人の設立当初の役員の任期は、第15条第1項の規定にかかわらず、この法人の設立の日から令和7年8月31日までとする。

4 この法人の設立当初の事業年度は、第42条の規定にかかわらず、この法人の設立の日から令和6年8月31日までとする。

5 この法人の設立当初の事業計画及び収支予算は、第43条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。

6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

(1)理事

入会金1000円 年会費0円

(2)監事

入会金0円 年会費0円

(3)正会員

入会金1000円 年会費0円

(4)賛助会員

個人又は団体 入会金0円 年会費1口3000円

(5)ボランティア会員

入会金0円 年会費0円

(6)メール、LINE会員

入会金0円 年会費0円

(7)手紙会員

入会金0円 年会費500円